

行持とは何か　『修証義』を通して

令和三年七月二十三日（金）

『修証義』

一章総序

仏教の人生観・世界観、業・因果

二章懺悔滅罪

懺悔して身口意の三業で造ってきた悪や罪を消滅

三章受戒入位

戒を受け、仏の位に入る。

四章発願利生

菩提心を発し、衆生済度する。四摂法（布施・愛語・利行・同事）

五章行持報恩

行持を實踐することによって恩に報いる

仏の恩に報いる

仏法に出会えたことの恩、仏法を今の時代まで伝えてこられたこと

行持とは

仏にかなった生き方、心持ち

「其報謝は余外の法は中るべからず、唯当に日日の行持、其報謝の正道なるべし、謂ゆるの道理は日日の生命を等閑にせず、私に費やさざらんと行持するなり。」
毎日を等閑に過ぎさず、自分のために生命を費やさず、利生を目指すべき

利生 衆生済度という仏の仕事

四摂法 布施 「布施というは貪らざるなり」

愛語 「愛語というは衆生を見るに先ず慈愛の心を発し」

利行 「利行というは貴賤の衆生に於きて利益の善巧を廻らすなり」

同事 「同事というは不違なり」

衆生済度 自分のことよりも他の為に行動する 「自未得度先度他」

「徒に百歳生けらんは恨むべき日月なり、悲しむべき形骸なり、設い百歳の日月は聲色の奴婢と馳走すとも、其中一日の行持を行取せば、一生の百歳を度取するのみに非ず、百歳の陀生をも度取すべきなり」

「この行持の功德、われを保任し、陀を保任す。その宗旨は、わが行持、すなはち、十方の匝地漫天、みな、その功德をかうぶる。」（『正法眼蔵・行持（上）』）

加茂法話会

安龍寺 齋藤隆光